

職業意識と意思決定支援

— VRT カードの活用に関する検討 —

Vocational Consciousness and Decision-Making Support

— A Study on Utilization of VRT Cards —

大 重 康 雄

Yasuo Oshige

鹿児島女子短期大学

本研究は、学生のキャリアに関する意思決定を支援する方法について述べたものである。研究方法として、就職活動を控えた一般企業を進路先とする本学教養学科学生に、夏休み明けの段階でどのような意識で、就職を考えているかアンケート調査を行い、その不安材料・ニーズに対しキャリア支援を行い、その効果を確認する手法である。アンケート結果では、約6割がまだ進路が不明確であり、大まかに進路を決めている学生も含めて全体の9割が自分の就職に不安を感じている結果が出ている。学生の就職に対する不安材料「希望業種・職種が不明確」および企業選択で重視する条件「仕事の質・量が自分にあっているか」であり、この二つは、いずれも職業選択の自分とのマッチングということに集約できる。「VRT カード」を使った職業レディネス・テストを試行として希望学生に実施したが、課題への対抗策として有効なツールの一つであることが、今回の受検者に関して認められた。

キーワード：VRT カード、職業選択、意思決定支援、ホランド6領域 (RIASEC)

1. はじめに

平成25年は、現政権がデフレからの脱却を目指して、大胆な景気対策「アベノミクス」を実行、円高に歯止めが掛かったことを契機に景気マインドも好転してきた。鹿児島県内も新卒者への求人は堅調な動きが見られている。しかし、実際に就職活動を行っている学生のマインドに際立った明るさは無い。大手有名企業に応募が集中する傾向は変わらず、就職活動におけるミスマッチは例年通り続いている。

学生から職業人への円滑な移行は、生産年齢人口の減少が始まりつつある我が国にとって極めて重要な課題であり、キャリア教育が重視される理由である。2011年より設置基準が改正され同キャリア教育（キャリアガイダンス）が義務化され、本学でも全学的にキャリア教育を実施する体制になっている。学生はキャリア教育プログラムに日々真摯に取り組んでいる。しかし、実施の就職活動時期になってくると、学生は非常に神経質になり、多くの学生が不安な気持ちを訴えてくる。個別に学生相談を受ける時に共通して出てくる問題が、「自分がどの様な仕事に向いているのかわからない。」「何から就活を始めてよいかかわからない。」という相談である。

本研究では、これら学生の声にどの様に対応すべきか。またその対応が学生の共感を得られる方法かを検証したものである。就職活動の初期段階で必ず行っているのが、「自己分析」であるが、キャリア教育プログラムの過程でも学んでいるが、自分の進路への意思決定プロセスに有効に反映させるのは非常に困難である。今回試行的に行った「VRT カード」を使用したキャリアコンサルティングは、それら課題の解決方法の一つとして学生からの一定の評価が得られた。一般企業向け就職の多い教養学科1年生に対する職業選択に関する意思決定支援の手法について述べる。

2. 問題・目的

日本では、新規卒者が労働市場への供給源として大きな意味を持っており「学校に委ねられた職業選抜」¹⁾ という表現で荻谷 (1980) は、欧米の労働市場慣行との差異を指摘している。またそのことに関しては、「企業の求人状況においても実際の就職機会の配分においても、学力ランクというメリトクラティックな基準が重要な意味」を持っていることも指摘している。その指摘以降、バブル崩壊以降、リーマンショックを経て年功制・終身雇用・定期昇給といった日本独自の労働慣行は大きく変化してきた。しかしながら、新規学卒就業者が既経験労働者より優先され就業していることは、現在でも基本的には変わっていない。その新規学卒者に雇用の重点が置かれている以上、学生を育て送り出す学校側の就業力育成への関わりは依然重要なのである。

短大生の就職活動は1年後期12月には実質的に開始される。入学後8ヶ月経った時点で自分の進路を見定めておく必要がある。主に一般企業を目指す教養学科学生は、夏休み明けの時期、どの位の学生が自分の進路の方向性を決定しているのだろうか。就職活動が不調になっている学生の多くは、「決められない」ままに、モチベーションを落としてしまう。出来るだけ早い時期で自分の職業への方向性を認識していれば、その後の企業エントリーや就活スキルの向上も期待できるはずである。できれば楽しみながら、自分の職業選択への方向性が見出せれば、多くの学生が前向きに就職活動に取り組み、自ずと結果も出てくるであろう。現状より一歩前に踏み出させる、進路指導・キャリアコンサルティングが必要である。

本研究の目的は、第1に就職活動に取り組む直前の教養学科1年生の就職意識を調査し、実態を把握する。同時に就職後の将来目標を調査し、現時点での「時間的展望」も把握する。不本意就職であった場合、将来の目的を失いやすく志半ばで退職してしまう可能性が高いためである。第2に、学生の職業選択の方向性を自ら認識し、その方向性について納得できる方法を検討することである。今回の研究に当たっては、夏期休暇中、実験的に行った「VRTカード」による「職業レディネス・テスト」が受検学生から非常に評判が良く、その後受検希望者を募り試行を行ったが、学生評価アンケートを分析し今後のキャリアコンサルティングの職業選択のための動機付けツールとして可能性を検討する。また同VRTカードでの検査結果を、学生へフィードバックするようになっているが、学生が理解し自ら行動を起こしてもらう為に行った結果ふり返り上の留意点についても述べたい。

3. 方法

3.1 実施期日と調査対象

(1) 「就職意識調査」

2013年9月24日、本学教養学科1年生 当日出席の87名を対象に実施。全員分を回収。

(2) 「VRTカードによる職業レディネス・テスト²⁾」

2013年9月12日～同年11月13日 同テストを希望した学生17名に対しテストを実施。

実施後のアンケート調査は17名中15名から回収。

3.2 手続き

(1) 「就職意識調査」

対象学生が受講している必修授業「キャリアデザインI」の中で調査の意図を説明し、質問票を配付し、その場で回答させ、授業終了後直ちにその場で回収。

(2) 「VRTカードによる職業レディネス・テスト」

上記キャリアデザインIの授業を通じ、今後就職活動時期を迎えるに当たって、職業選択の方向性に関する職業レディネス・テストを実施することを告知。試行的な実施であり義務化せず、自分自身の職業的興味や就職活動の方向性を相談したい学生の自主的な参加とした。テストは研究室内で実施。一人当たり所要時間30分(テスト20分・結果の整理(振り返り)及びアンケート作成10分)

3.3 質問項目

(1) 「就職意識調査」

表1 質問票配付。表は就職に関する方向性等、裏面は将来目標等時間的展望に関する質問。

(2) 「VRTカードによる職業レディネス・テスト」

表2に示す54枚のカードを使い、「興味」と「自信」に分け2回実施。

興味: 「やりたい」「どちらともいえない」「やりたくない」

自信: 「自信がある」「どちらともいえない」「自信がない」の3つに分類しスコアに集計。

表 1 職業意識調査 アンケート票 表・裏

平成 25 年 9 月 24 日

「就職意識調査」
 ※学内の就職支援改善やキャリア教育等研究資料といたします。教養学科 大重

組 番 氏名: _____

設問への回答は、その程度を表す数字にマーク○をして下さい。選択肢の番号にマークして下さい。

1. 就職（編入・進学予定ではその後の就職）に関して方向性が決まっていますか？
 どちらでもない
 一決まっている [1 2 3 4 5] 決まっていない

2. 自分の就職に不安を感じていますか？
 どちらでもない
 一不安だ [1 2 3 4 5] 不安はない

3. 不安の原因は何でしょうか？ <複数回答可 3つまで>
 1. 経済・雇用状況
 2. 自分の学力・能力
 3. 就職活動への準備不足（自己分析・企業研究・筆記面接試験対策）
 4. 希望業種・職種が不明確
 5. 就活情報不足
 6. 就職支援体制への不安
 7. その他（自由記述: _____）

4. 就職の際、重視する条件は何でしょうか？ <複数回答可 3つまで>
 1. 賃金水準
 2. 休日日数（余暇）
 3. 仕事の質・量が自分に合っている
 4. 仕事のやりがい・資格・能力を活かす可能性
 5. 勤務地
 6. 福利厚生 の充実度
 7. 企業の安定性
 8. 職業の社会的地位
 9. 地域・社会への貢献
 10. 正社員か非正規社員か
 11. ノルマ・目標管理の有無
 12. 親・保護者等の意向
 13. その他（自由記述: _____）

5. 就職後の将来目標を一つあげて下さい。（今後の人生で日頃から実現したいと思っしていることなど）

○ _____

①上記目標の達成の可能性はどうか？
 どちらでもない
 一非常に困難 [1 2 3 4 5] 非常に容易

②その目標はどれくらいあなたにとって重要ですか？
 どちらでもない
 一非常に重要 [1 2 3 4 5] 全く重要ではない

③その目標のためどれくらい努力していますか？ 又はできますか？
 どちらでもない
 一非常に努力 [1 2 3 4 5] 全く努力しない

④その目標を実現できるとどれくらい確信していますか？
 どちらでもない
 一非常に確信 [1 2 3 4 5] 全く確信していない

⑤その目標が実現できるとすれば、運か努力か？
 どちらでもない
 一運など外的要因 [1 2 3 4 5] 努力など内的要因

⑥その目標を達成するために必要なことをどれくらい準備している、しようと思っっていますか？
 どちらでもない
 一全く準備してない [1 2 3 4 5] かなり準備している

⑦途中で困難に遭遇した際、その目標達成への努力はやめてしまっうか、やめてしまっうか？
 どちらでもない
 一努力をやめてしまっう [1 2 3 4 5] 努力を続ける

以上

記入おつかれさまでした。就職相談の際の参考資料にも利用します。個人情報厳守します。

○ _____
 短大の就職支援に望むことがありましたら、記入してください。

出典：裏面質問尺度 都筑学「大学生の時間的展望」中央大学出版部 pp.211-213を参考に選択し作成²⁾

VRT カードによるテスト後、結果の整理（振り返り）を行い、同カードに添付の「VRT カード結果・整理シート」に結果を記入。その後受検者の感想を表 4 アンケート票に記入させ、その場で回収した。

表 3 ホランド職業興味 6 領域 内訳

興味領域	英語表記	内容
現実的興味領域	R(Realistic)領域	機械や物を対象とする具体的で实际的な仕事や活動の領域
研究的興味領域	I(Investigative)領域	研究や調査のような研究的、探索的な仕事や活動の領域
芸術的興味領域	A(Artistic)領域	音楽、美術、文学等を対象とするような仕事や活動の領域
社会的興味領域	S(Social)領域	人と接したり、人に奉仕したりする仕事や活動の領域
企業的興味領域	E(Enterprising)領域	企画・立案したり、組織の運営や経営等の仕事や活動の領域
慣習的興味領域	C(Conventional)領域	定まった方式や規則、習慣を重視したり、それに従って行うような仕事や活動の領域

出典：室山晴美「VRT カードの開発と活用の可能性の検討」p.8⁴⁾

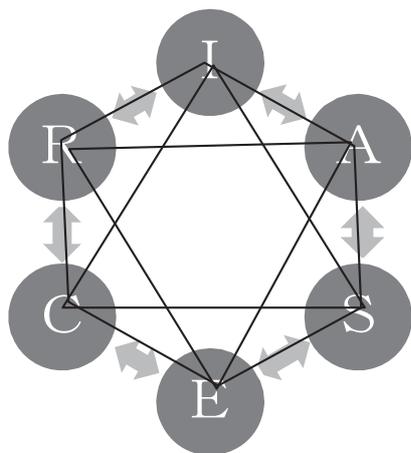


図 1 ホランド 6 領域の配列イメージ (作者作成)

表2 VRT カード 個々の記載内容

職務内容記述	職業名	ホランド 興味コード	DPT コード
1 部品を組み立てて機械を作る	機械組立工	R	T
2 古い地層から化石や骨を築め、恐竜や昔の生き物の生活を調べる	古生物学者	I	D
3 家具や照明など、部屋のインテリアのデザインをする	インテリアデザイナー	A	DT
4 保育園で乳幼児の世話をしたり、いっしょに遊んだりする	保育士	S	P
5 自分の店を営む	商店経営者	E	DP
6 文字や数字を、コンピュータに入力する	コンピュータオペレータ	C	D
7 火薬を使って花火を作り、安全に打ち上げる	花火師	R	DT
8 環境をよくするために大気や水の汚れを測定し、分析する	化学試験分析員	I	D
9 小説を書き、出版したり、雑誌に載せたりする	文芸作家	A	D
10 客の状態に合わせて、指圧やマッサージなどを行う	指圧 マッサージ	S	P
11 テレビやラジオの番組を企画し、番組づくりを取り仕切る	放送ディレクター	E	DP
12 帳簿や伝票に書かれた金額の計算をする	経理事務員	C	D
13 木材を加工し、組み立てて、家を建てる	建築大工	R	T
14 農業試験場で、農作物の品種改良の研究をする	植物学研究者	I	D
15 人物や風景、物の写真をとり、雑誌やポスターに発表する	商業カメラマン	A	DT
16 ツアー旅行に同行し、宿泊の手配など参加者の世話をする	旅行会社添乗員	S	P
17 客を築めるため、広告や催し物などを企画する	販売促進員	E	DP
18 文字や数字を、書類に正確に記入する	庶務係事務員	C	D
19 火事の現場に駆けつけ、逃げ遅れた人を助けたり、消火活動を行う	消防士	R	PT
20 海水の成分や海流について調査研究する	海洋学研究者	I	D
21 テレビドラマや映画のシナリオを書く	シナリオライター	A	D
22 ホテルで、宿泊客の受付や、案内などのサービスをする	ホテルフロント係	S	DP
23 新しい組織を作ってリーダーになる	チームリーダー	E	DP
24 銀行で現金を支払ったり、受け取ったりする	銀行出納係	C	D
25 工事現場で、ブルドーザーやクレーンを運転する	建築機械オペレーター	R	DT
26 新しい理論を考えて、調査や実験でそれを確かめる	研究者	I	D
27 マンガをかいて雑誌にのせたり、コミック本を出版する	マンガ家	A	DT
28 患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする	看護師	S	DP
29 世の中のできごとをいち早く取材し、新聞にその記事を書く	新聞記者	E	DP
30 依頼に未だ客に代わって、役所へ出す書類を作成する	行政書士	C	D
31 トラックを運転して貨物を運ぶ	トラック運転手	R	PT
32 病原体を発見するための実験や研究をする	細菌学研究者	I	D
33 インターネットのホームページのデザインをする	WEBデザイナー	A	DT
34 家庭を訪問して、お年寄りや体の不自由な人を世話をする	介護福祉士	S	P
35 ニュースを読んだり、テレビやラジオの番組の司会をする	アナウンサー	E	DP
36 ワープロやパソコンを使って、書類などを消す	事務機器操作員	C	DT
37 自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する	自動車整備工	R	DT
38 新しい薬を開発する	薬学者	I	D
39 曲を作ったり、編曲したりする	作曲家	A	D
40 病院で、患者の治療や病気を予防の仕事をする	医師	S	DP
41 社長として、会社の経営の仕事にあたる	会社社長	E	DP
42 コンピュータを使って、複雑な計算をする	コンピュータプログラマー	C	DT
43 飛行機が安全に飛べるように、点検や整備をする	航空機整備士	R	DT
44 博物館などで、歴史・民俗などの資料を築め、研究する	学芸員	I	DP
45 洋服やアクセサリーのデザインをする	服飾デザイナー	A	DT
46 悩みをもつ子どもやその家族からの相談にのり、援助する	児童相談員	S	DP
47 店長として、商品の仕入れや販売方法を工夫し、売上げを伸ばす	店長	E	DP
48 会社で書類のコピーをとったり、電話の取次ぎをする	一般事務員	C	D
49 船に乗って、魚や貝などの漁をする	漁師	R	DT
50 大学や研究所で、科学の研究をする	科学研究者	I	D
51 雑誌やパンフレットなどにイラストをかく	イラストレーター	A	DT
52 飛行機の中で、乗客にサービスをする	航空客室乗務員	S	P
53 流行しそうな商品を仕入れ、売り出しの方法を考える	営業課長	E	DP
54 従業員の毎月の給料を計算する	給与事務員	C	D

出典：「VRT カード利用の手引き」独立行政法人労働政策研究・研修機構 関係資料 pp.40-41

「VRT カード結果・整理シート」は、図1に示すホランド6領域が地図状に示され、受検者は答えた職業興味を図上にプロットするようになっている。従って、自分の職業興味分野が一目して理解でき、具体的な職業名の位置関係から、隣接する領域への可能性などを受検者自らが理解することができる。このシートは受検の成果として学生に持ち帰らせ、今後の就職活動等自らの進路選択のエビデンスとして、活用するようにアドバイスした。

表4 VRT カードアンケート

VRTカード体験についてのアンケート					
年 組 氏名					
※当てはまるところに○をつけてください。					
質問内容	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
①やり方をすぐに理解できた					
②分類が楽だった					
③分類の判断が速くできた					
④分類の時、興味がわいた					
⑤使いやすかった					
⑥楽しく出来た					
⑦結果がわかりやすかった					
⑧結果について納得出来た					
⑨自分の興味がよくわかった					
その他、何か感想や気がついた点					

出典：「VRT カード利用の手引き」独立行政法人労働政策研究・研修機構 p.30を参考に作成

4. 結果

4. 1 就職意識調査

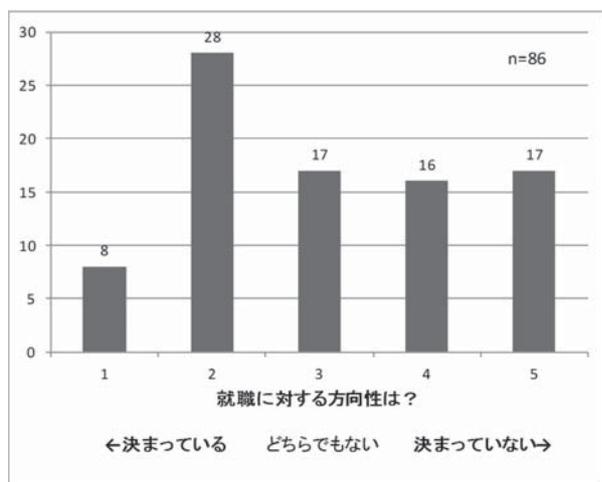


図2 就職に関しての方向性について

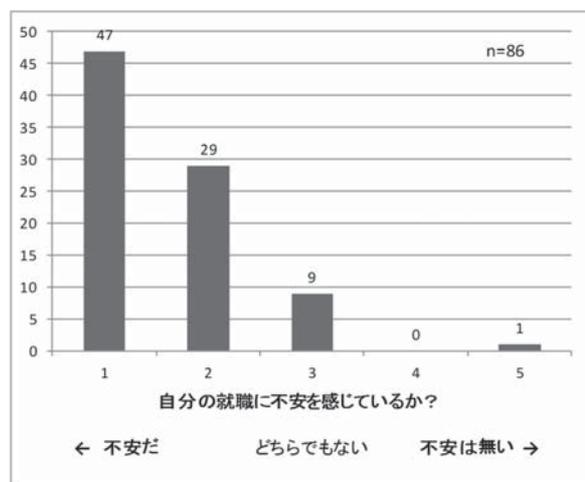


図3 就職への不安

(1) 就職に関しての方向性について 図2

このアンケートを採った時期は、前述の通り1年生の夏休み明けである。四大生にとっては、就職活動とは無縁の時期かもしれないが、短大生にとっては既に就職活動の準備時期到来であり、自己分析結果から職業選択へ戦略を練る時期であろう。結果では大まかに決まりつつあるというレベル2に28名、既に決まっていた8名を合わせると32名、全体で42%。残りの58%の学生がまだ決まっていないか、迷っている状況である。

(2) 就職への不安 図3

就職への不安では、レベル1～2に集中しており、全体の9割近い学生が自分の就職に不安を感じている状況がわかる。景気動向は徐々に好転しつつあるが、自分の就職に対する不安は景気動向とは無関係である。

(3) 不安の原因 図4

不安の原因の上位は全て、自分自身の内的問題から派生している。学力や能力はすべきことが明確であり、今後

努力次第で修正可能な項目であり、就職活動への準備も同様である。

第3位の「希望業種・職種が不明確」は自分の興味・能力・価値観が関わっており、自分自身での意思決定が必要である。多くの学生が不明確なまま成り行きで就職活動に着手しており、キャリア支援が必要である。

(4) 就職の際、重視する条件 図5

就職の際重視する条件に関しては、第1が「仕事の質・量が自分に合っている」を多くの学生が重視している結果となった。

就職への不安の原因に「希望業種・職種が不明確」が上位にあることと考え合わせると就職への方向性が明確になりさえすれば、自信をもって自らの適性のある職場に向かうことが出来るはずである。また、「仕事のやりがい・資格・能力を活かす可能性」よりも、「賃金」・「休日日数(余暇)」が上位にあり、非常に現実的な選択傾向がみられた。入社後のミスマッチにつながる可能性を予感させる結果である。

(5) 就職後の将来目標 表6

就職活動がはじまり、入社試験面接で頻繁に問われるのが「入社後のビジョン」や「将来展望」である。今回は「将来目標」を1つあげさせる設問としたため、非常に多様な回答となった。回答のあった内容を①仕事 ②個人 ③総合(仕事にも個人にも関係する内容)に分類しそれぞれの因子を更に分類して集計したのが、図6である。

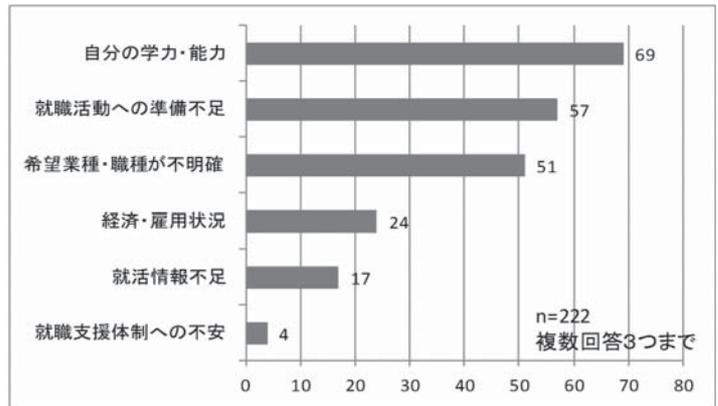


図4 不安の原因

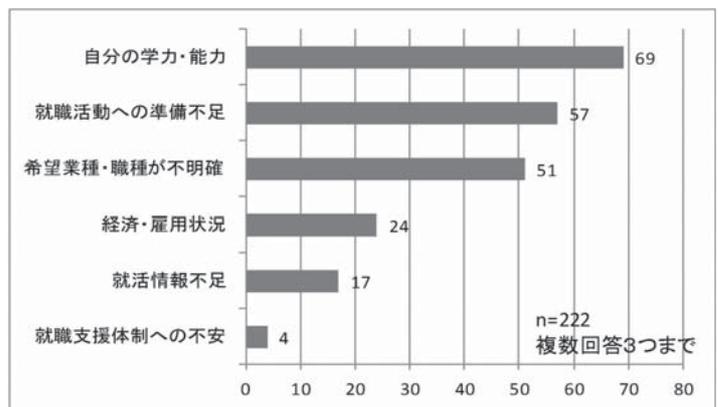


図5 就職の際、重視する条件

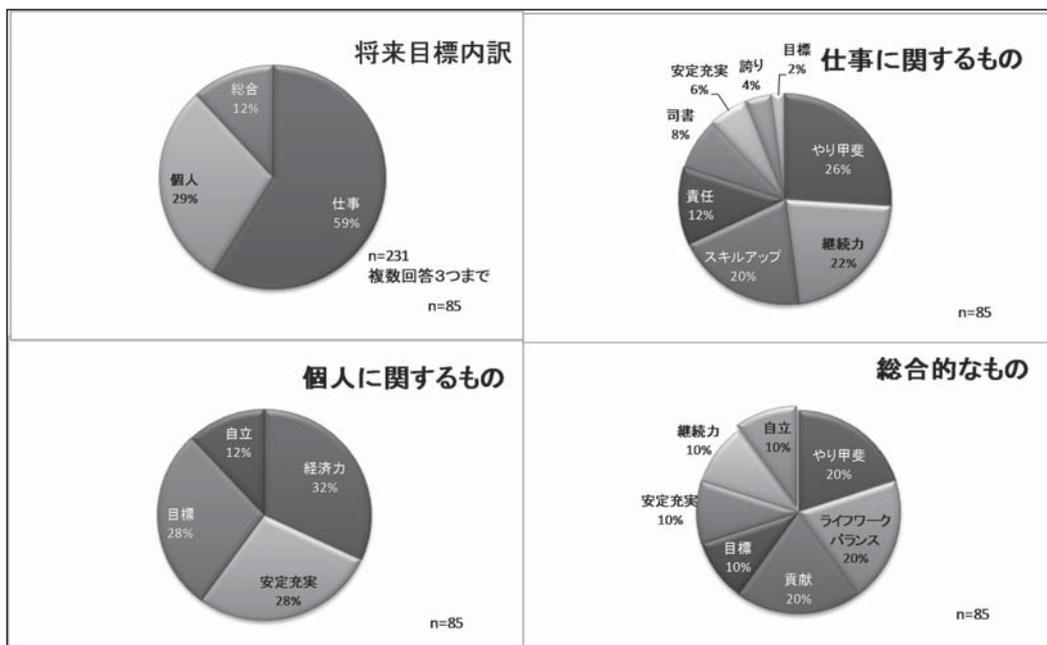


図6 就職後の将来の目標 (一つだけあげる)

結果は、仕事・個人・総合の比率が6：3：1という内訳となった。やはり職場での目標が重要と考えられている。仕事に関しての上位には「やり甲斐」を筆頭に「継続力」「スキルアップ」が、2割ずつ均等に続き、上位3つ合計で7割近くを占めている。「継続力」という因子で分類した内容の多くは、「一つの会社で出来るだけ長く働きたい」「辞めない」といった内容であった。個人に関する内容には経済的内容や海外旅行や語学などの目標を掲げている。総合的なものの上位にはやはり「やり甲斐」が上がり、同率で「ライフワークバランス」に関する記述が多かった。ジェンダーの問題は今後ますます大きな問題になってくることが予想されるが、学生なりに職場と家庭とのバランスを将来目標においていることは、手堅い印象である。

表5 職後の将来の目標……各設問回答状況

①目標の達成の可能性はどうか？						
	1	2	3	4	5	
←非常に困難	0	7	51	24	4	非常に容易 →
	0%	8%	59%	28%	5%	
②その目標はどれくらいあなたにとって重要ですか？						
	1	2	3	4	5	
←非常に重要	27	38	15	6	0	全く重要ではない →
	31%	44%	17%	7%	0%	
③その目標のためどれくらい努力していますか？ 又はできますか？						
	1	2	3	4	5	
←非常に努力	3	22	47	11	3	全く努力しない →
	3%	26%	55%	13%	3%	
④その目標を実現できるとどれくらい確信していますか？						
	1	2	3	4	5	
←非常に確信	4	18	42	19	2	全く確信していない →
	5%	21%	49%	22%	2%	
⑤その目標が実現できるとすれば、運か努力か？						
	1	2	3	4	5	
←運など外的要因	0	4	15	40	27	努力など内的要因 →
	0%	5%	17%	47%	31%	
⑥その目標を達成するために必要なことをどれくらい準備している、しようと思っっていますか？						
	1	2	3	4	5	
←全く準備していない	5	12	48	17	4	かなり準備している →
	6%	14%	56%	20%	5%	
⑦途中で困難に遭遇した際、その目標達成への努力はやめてしまおうか、やめてしまいたいそうか？						
	1	2	3	4	5	
←努力をやめてしま	1	8	21	37	19	努力を続ける →
	1%	9%	24%	43%	22%	

回答した、将来の目標に対し、「達成の可能性」を都筑(1999)の付録にある「将来目標リストアップ法A」にある尺度から選択アレンジし学生に問いかけた。しかしながら、多くの質問に対し、5段階で3に集中する中心化傾向が見られ、掲げた目標に対する認識が弱く、評価に自信が持てなかったことが考えられる。但し、問5に関しては目標実現は努力が必要とする回答が8割近くを占め、自助努力の必要性を感じている回答であった。

4.2 VRTカードによる職業レディネス・テスト

今回は、自分の職業興味や適性を確認したいと希望した学生17名にたいし、試行的に独立行政法人労働政策研究・研修機構から取り寄せた「VRTカード」を使用したカードソート法で実証的に標準化された「職業レディネス・テスト⁵⁾」を実施した。検査の下部尺度としているA検査では職業興味を測定し、C検査では職務遂行の自信度を測定した。B検査では対情報関係志向(Data Orientation)・対人関係志向(People Orientation)・対物関係志向(Thing Orientation)と3つの基礎的志向性を検査するものである。今回は試行であり、出来るだけ学生に負担をかけずシンプルに理解しやすくすることを心がけたため、B検査は実施しなかった。但し記録は保存してあり、後に分析することは可能である。

(1) ホランド6領域(RIASEC)への分布状況

大重(2010)では、キャリアカウンセリングの研究の一環で、独立行政法人労働政策研究・研修機構が運営していた、総合情報サイト「CAREER MATRIX」(事業仕分けで廃止通告を受け、2011年にサービス停止)を利用して、同じく教養学科学生へのホランド6領域分析を行っているが、C慣習的 E企業的 S社会的領域に志向性が高いのは共通している。しかし今回は、A芸術的領域にも、前回のおよそ2倍の志向が集まっているのが特徴である。

(2) 分類全体のレベル

図8は、分類全体のレベルを示したグラフである。尚、興味に関してグラフ上の表記はカード上「やりたい」を「興味あり」、「やりたくない」を「興味が無い」に読み替え、表記を統一してある。結果は一見して分かるとおりに「興味が無い」「自信が無い」が過半数を占めている。同カードの手引きp.21の解説では「職業全体に対して興味、関心が低い、あるいは遂行に関して自信がもてないことが示されています。」となっている。実際に相談に来た学生がこれらのレベルが低いため、アドバイスを受けに来ており、妥当な結果であろう。しかし、図9の学生個別のデータを見る限り、a~qまで実に多様であることがわかる。

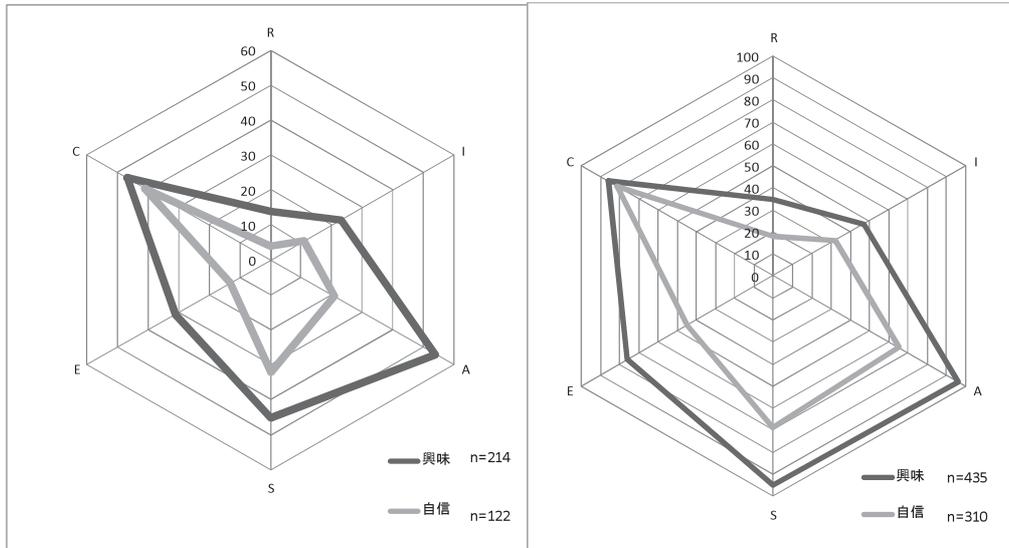


図7 ホランド6領域 (RIASEC) への分布

※左図は興味あり・自信あり単独データで表示。右図は「どちらともいえない」を含むデータで表示。

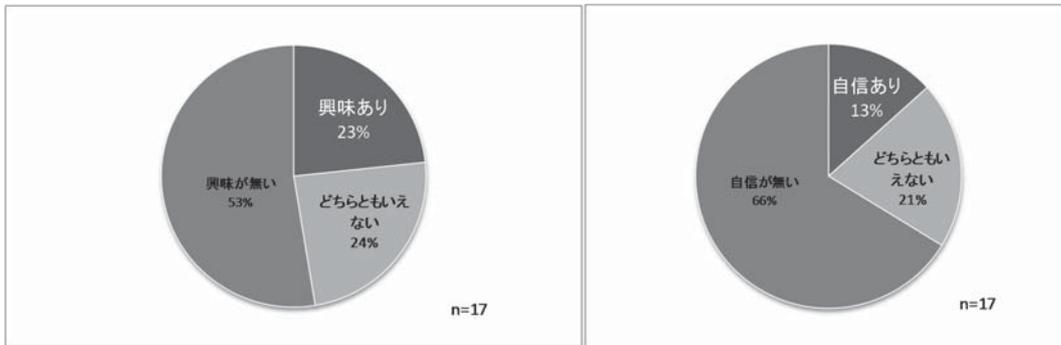


図8 分類全体のレベル

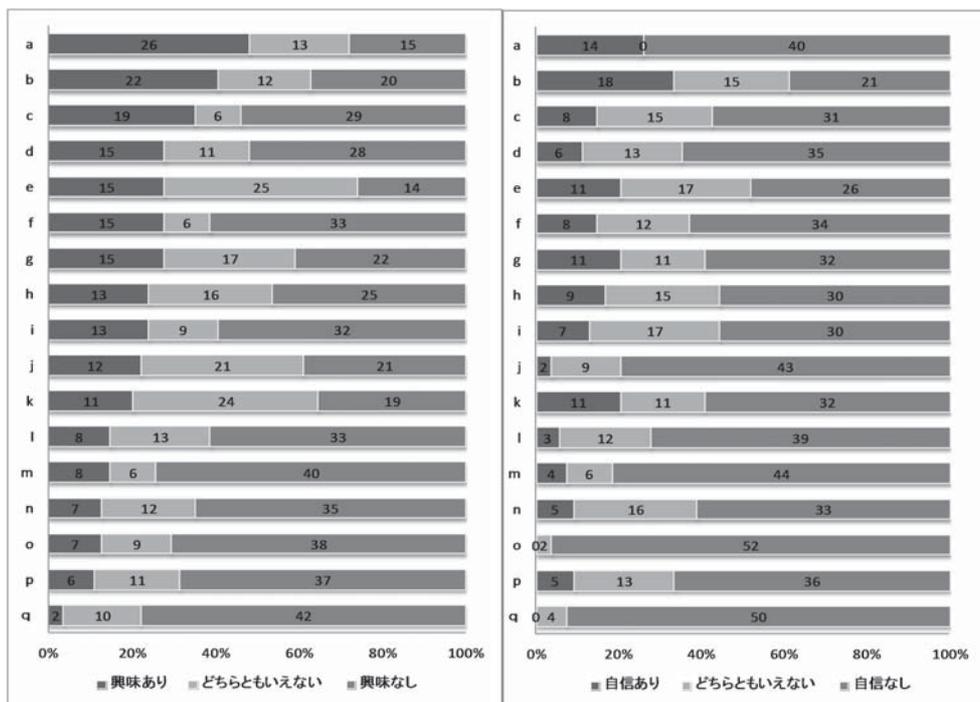


図9 学生の個別分類レベル

(3) 学生個別のホランド6領域分類

図8で、学生の個別分類上非常に多様な状況が分かったが、ホランド6領域分類でも同様の状況が確認できた。図9は上が興味ありとしたホランド6領域であり、下がその自信の分類である。現実的 R 領域は極端に少ないが研究的 I 領域や芸術的 A 領域では、多様さがみられる。全体的には慣習的 C 領域に収斂していることが分かる。これに「どちらともいえない」という、否定はしていない中間領域をみてみると、非常に込み入ったレーダーチャートになっている。肯定も否定もしない不可分の部分がかかなりある。興味領域を広げていく源泉は、まずこの分類からであろう。実際には振り返りシートのマップ上に、学生に分かりやすくチェックをいれて区分してある。否定の無い保留のままに留まっている領域に注目することが、極めて重要である。

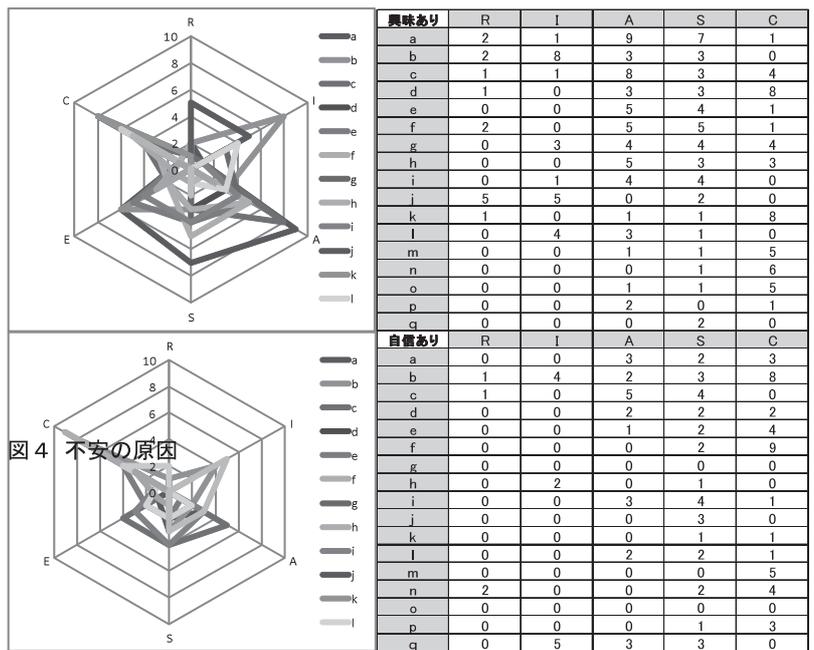


図10 学生の個別ホランド6領域分類

(4) VRTカード利用の感想アンケート

今回、試行的に実施した、VRTカードでの職業レディネス・テストのアンケート結果は図11の通り非常に学生の評価が高かった。特に「楽しく出来た」は全員が評価しており、満点であった。口コミでこのテストのおもしろさが学生に伝わり、また納得性に対する評価も高かった。元々、職業レディネス・テストは紙と鉛筆で実施するものであるが、今回カード式になり、また対面でテスターが読み上げながら実施していくところが、学生にはまるで、占い師が自分の将来を占っているように受け取っている様子であった。一人のテストに約30分掛かるため、大量に調査は出来ないが、受検して一定の進路基準を受け取れることから、迷いが払拭されるようにコメントしている学生もいた。

表7は、アンケートの自由記述欄への記載を大まかな因子分類したものである。多くの学生が就職活動に対する何らかのヒントがあったことや、これ



図11 学生の個別ホランド6領域分類 興味 : どちらともいえない



図12 VRT カード利用の感想アンケート

表6 VRT カード利用の感想アンケート……自由記述欄内容

カードソート法の効果	自分の興味があるところというのが、今まではっきりわからなかったですが、今回のVRTカード体験ではっきりわかりました。とても楽しくできました。
	興味があるものや自信があるものが正確に分かり、自分自身がどうしていきべきかが分かった。不安な部分があったけど、これからの目標を見つけることができた。
	私が興味のあるもの、ないものがわかり、自己分析が少しできました。一番やりたいと思っているものの横にもきになる職業があり、視野が広がりました。(広がった気がします。)これを活かしていきます。また次回やってみたいです。
	自分の目指しているものとは、あまりかぶっていないところに集中して驚きました。
	これから資格取得などの目標が見えたため、やってよかったと思った。
	参考にして就活をしていこうと思った。
	自分が思っていることが、結構出たので、このままこの道に進みたいと思った。
	自分は芸術的領域が多く、そして一般事務などもあってそれら是对極しているけど、同時に生かせられるということがわかり、勉強になりました。
	カードを振り分けている時、少し自分でもわからなくなりました。でも結構楽しかったです。
自分の結果の分析や感想	でも、やっぱり理想と現実とはちがうですね。
	ゲームみたいで楽しかった。
	思っていた以上に自分に自信がなくて驚きました。これから様々なことに興味関心を持って、「自分のランド(殻)」を抜け出せるよう頑張りたい。
	今は自信がなくて、やりたいことが見つけられないが、検定を受けて自信をつけたいです。
	今まで何とも思っていなかった分野にも、興味のあることがあって、新しい一面を見つけれられたと思います。やる前から興味ないと除外するのではなく、内側をみて決めていきたいです。
	前は自分のやりたいことが全く分かっていなかったのですが、VRTが終わった後の結果を見た時は意外に幅広く取ることができるんだと、思うことができ道が幅広くなってきたと思った。

まで認識と違ったことへの驚きを感じており、全体としてプラスの効果が認められた。

5. 考察

今回の研究では、まず学生の就職意識調査を行いキャリア支援上何が必要かを明らかにしようとした。教養学科学生の内、約6割がまだ進路が不明確であり、大まかに進路を決めている学生も含めて全体の9割が自分の就職に不安を感じている結果が出ている。不安の内訳上位は自分の学力能力、就活への準備不足であり、これは学生自身が解決すべきことである。しかし第3位に「希望業種・職種が不明確」が上がっている。将来に向けた意思決定が必要なことがらである。また、就職において重視する条件に第1位が「仕事の質・量が自分に合っている」が上がっており、学生の意思決定を支援し一定の方向性を出来るだけ早く示すことが、非常に重要となってくる。

そこで、学生自身が自分の職業興味を可視化でき、職業への方向性をアドバイス可能なツールとして、「VRTカード」による職業レディネス・テストを試行してみた。学生からの自発的な要望を受け、試行を行っていったのでサンプル数が非常に少なく、最終的な評価までには至らないが学生の事後アンケートを分析すると結果は良好であった。テスト結果は、「やりたくない」「自信がない」が過半数を超え、職業全般に対し興味、関心が低いという分析結果にはなったが、それでも受検した学生の満足度は高く、今後他のキャリア支援ツールや訓練と合わせて、より効果を上げることが可能であろう。「カードソート法」の持つ「楽しさ」は、キャリアカウンセリング上も重要なキーワードである。今も希望する学生からの要望が続いている。

また今回明らかになったホランド6領域は、求人募集を行うときの貴重な資料となり得る。企業とのミスマッチ解消は

企業側が学生のニーズ合わせることが非現実的であり、「どちらともいえない」不可分の領域に対し求人情報を示すことで、ポジティブなものに変えることが必要であり、妥当なキャリア支援となる。

6. 結論

学生の就職に対する不安材料「希望業種・職種が不明確」および企業選択で重視する条件「仕事の質・量が自分にあっているか」この二つは、いずれも職業選択の自分とのマッチングということに集約できる。「VRTカード」を使った職業レディネス・テストは先の課題への対抗策として有効なツールの一つであることが、今回の受検者に関しては認められた。今後はさらに、サンプル数を増やし、より多くの学生から支持されるツールに育てていくことが必要である。

また今回学生からの評価が高かった要因の一つにデータでは示せないが、キャリアカウンセリング・スキルを使い、学生に対しVRTカードでの結果を要約し、その上で必要な対策を具体的に学生に伝えたことが効果を上げた要因の一つであると認識している。実際振り返りシート上にデータを落としていくと、学生一人ひとり全く違ったストーリーが見えてくる。楽しく会話しながら、カードをめくり学生の将来像を考える機会は、非常に手間と時間がかかるものの、良い結果につながると確信できた。

引用・参考文献

- 1) 荻谷剛彦「学校・職業・選抜の社会学」東京大学出版会, 1991
- 2) 独立行政法人労働政策研究・研修機構「VRTカード利用の手引き」独立行政法人労働政策研究・研修機構, 2010
- 3) 都筑 学「大学生の時間的展望」中央大学出版部, 1999
- 4) 室山晴美「VRTカードの開発と活用の可能性の検討」独立行政法人労働政策研究・研修機構 JILPT Discussion Paper Serise 11-03, 2011
- 5) 一般社団法人雇用問題研究会ホームページ「VRT 職業レディネス・テスト」<http://www.koyoerc.or.jp/> (2013.11.05 取得)
- 6) 大重康雄「職業興味調査結果とキャリア・カウンセリング」鹿児島女子短期大学紀要第45号, 2010
- 7) 大重康雄「短大生の就職活動意識と意思決定支援」鹿児島女子短期大学紀要第47号, 2012
- 8) 佐藤 舞「職業興味と職業価値観：仕事に関する志向性の検討（第2章）」『労働政策研究報告書 No.146 職務構造に関する研究』, 独立行政法人労働政策研究・研修機構, 2012
- 9) 吉中 淳「大学生の職業認知の構造の検討－VRTカード所収の職業を対象に－」弘前大学教育学部紀要第108号, 2012
- 10) 渡辺三枝子「新版 キャリアの心理学」ナカニシヤ出版, 2007
- 11) 宗方比佐子・渡辺直登編著, 久村恵子他著「キャリア発達の心理学」川島書店, 2002 pp.14-15
- 12) Donald E.Super THE PSYCHOLOGY OF CAREERS Harper & Brothers., 1957 D.E スーパー 日本職業指導学会（訳）「職業生活の心理学」誠信書房, 1960
- 13) OCCUPATIONAL CHOICE Edited by W.M. Williams, George Allen & Unwin, 1974 WM ウィリアムズ編 吉井 弘（訳）「職業選択の理論」誠信書房, 1980

(2013年12月2日 受理)